

子どもがのびのび育つまちに

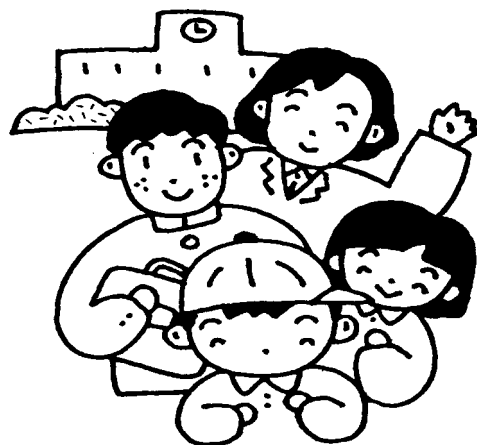
小中学校全てで30人学級実現を!

県制度は今...

群馬県では、県の制度として小学1・2年生で30人以下学級、小学3・4年生と中学1年生で35人以下学級が実現しています。

また、小学5・6年生の算数、中学2・3年生の数学の授業で、それぞれ30人以下の少人数指導ができるよう教員が配置されています。

これらは、「小・中学校全てで30人学級実現を」と求めてきた長い間の運動の成果です。



市立高校と四ツ葉学園市独自に30人学級に

伊勢崎市では、市立伊勢崎高等学校と、その敷地内に開設された四ツ葉学園中等教育学校において、ほぼ30人以下学級が実現しています(四ツ葉学園は31〜32人学級)。

中2・3年生はまだ多い! 1学級当り人数最多5校

2年生

	学校名	学級平均生徒数
1	境南中	39.7人
2	赤堀中	39人
3	第二中	38.7人
4	宮郷中	38.1人
5	第三中	37.8人

3年生

	学校名	学級平均生徒数
1	境西中	39.5人
2	殖蓮中	39.4人
3	あずま中	39.1人
4	第三中 宮郷中	39人
5	第一中	37.4人

「子ども・子育て会議」市民公募で設置 ニーズ調査、パブリックコメントも実施



伊勢崎市は、2015年度からの「子ども・子育て支援事業計画」策定のため、今年8月「子ども・子育て支援会議」を設置します。

保護者枠6人中、2人を市民から公募します。地域特性も盛り込んだニーズ調査を行い、会議は全て市民に公開されます。

国は、保育への株式会社参加も許すような問題の多い「子ども・子育て新システム」を導入し、消費増税を許さない運動と一体に、「新システム」を廃止させる取り組みも強めていきます。

さらに、四ツ葉学園の数学と英語は、通常学級をさらに半分に分けた少人数授業になっています。

未だ多い35人以上学級 改善を求めましょう

教育委員会は、30人学級実現を求める党議員団に対して、「子どもの数が減り、実質的に少人数学級になっている」と答えてきました。

ところが、今年5月1日現在、全小学校の半分12校で35人以上の多人数学級が残っています。特に、赤堀東小・あずま小の5年生は1クラス39人です。

また、中学校2・3年生は8割前後が35人以上学級であり、不登校の多発とも関連が心配されます。

教育委員会は30人学級について「丁寧な指導ができ、子ども達が落ち着き学力もつく」と、その成果を高く評価しています。四ツ葉学園や高校だけでなく、全学校に30人学級を広げべきです。

生活保護世帯で

学習支援策始まる

困難な進学状況

市内の全中学3年生の高校進学率が96.9%だった2011年度に、生活保護世帯の進学率は75%でした。

その内訳をみると、全日制高校に進んだ子は1人にとどまるなど、困難な状況が浮き彫りです。

進路	人数
全日制高校	1人
定時制高校	2人
フックス制高校	2人
私立高校	1人
未進学	2人

不十分な支援体制

生活保護世帯の子どもを支援すると、市は今年度初めて教員OBを学習支援員として雇用しました。

しかし、「週3日勤務で職員に世帯状況を聴いているところ、親への支援が中心」と、直接的な学習支援は難しい状況です。人員の増員と、施策の充実が求められます。

就学援助拡充で安心して学べる環境を

少ない伊勢崎市の 就学援助受給率

就学援助とは、経済的に困難な世帯の子どもに給食費や学用品代、修学旅行費用等を支援する制度です。学校に申請し、教育委員会が受給の可否を判断します。

昨年度は、若干受給率が増えましたが、旧5市ではまだ最低です(左グラフ参照)。

基準の改善と 積極的適応を

伊勢崎市の就学援助の基準は非公開で、4人も子どもを育てているのに「お父さんが正規雇用だから」と受けられなかったなど、大変不明確です。

「子どもの貧困」が大きな問題になっています。前橋市のように児童扶養手当受給世帯や非課税世帯は対象とするなど基準を改善し、公開するとともに全ての保護者に知らせ、積極的な適用を行うべきです。

2012年度小・中就学援助受給率 (準要保護・要保護)

